

**ALTEC**  
LANSING®

# ALTEC LANSING SPEAKER SYSTEMS

総合カタログ





# Index

<b>Voice of the Theatre Series</b>	2/3
A5 System	2
A7-500-8 System	3
A7-8 System	3
<b>Studio Monitor</b>	3/4
9846-8A	3
620A Monitor	4
612C Monitor	4
<b>Hi-Fi Speaker Floor Standing</b>	5/6/7/8
873A BARCELONA	5
846B VALENCIA	5
846E VALENCIA	6
878B SANTIAGO	6
879A SANTANA	7
STONHENGE II	8
<b>Hi-Fi Speaker Bookshelf Type</b>	7/8/9
BELAIR Mini Monitor	7
Model SEVEN	8
Model NINE	9
● DIG MK-II	9
<b>Duplex Speakers</b>	11
604-8G/605B/601-8D	
<b>Low Frequency Speakers</b>	12
515B/416-8B/411-8A/414-8B	
<b>High Frequency Drivers</b>	12
288-16G/802-8D/806-8A	
<b>High Frequency Horns</b>	13
1003B/311-90/311-60/511B/811B	
<b>Dividing Networks</b>	13
N500F/N501-8A/N801-8A	
<b>Full Range Speakers</b>	14
420A/755E/403A/405A	
<b>Horn Adaptors</b>	14
30940/30172/30973/21216/30546	
<b>Power Amplifier</b>	15
9440A	
<b>Active Equalizer</b>	15
9860A/729A	
<b>ALTEC Speaker Systems/ユニット構成図</b>	16
A1X/A4/A5/A7-500-8/A7-8/1225A/1221A/ 815A/415E/620A/612C/9846-8A/873A/846B /878B/846E/879A/STONHENGE II/BELAIR/ MODEL NINE/MODEL SEVEN/DIG MK-II	

新着のビルボード誌（1975年版）の統計による、全米のレコーディング・スタジオのモニタースピーカーシステムのメーカー別採用実績は、次の通りです。

ALTEC .....	522
JBL .....	339
EV .....	82
KLH .....	39
AR .....	34
TANNOY .....	24

この数値は、ALTECスピーカーが、いかにプロのエンジニアに信頼され、実際に使用されているかを、如実に示すものと云えます。

**ALTEC ランシング** この偉大なる世紀のブランドには、半世紀以上にも及び、栄光と不滅の歴史が深く刻みこまれているのです。

1920年初頭、ALTECはウェスタンエレクトリック社の1ディビジョンとして、異なる名の下に当時の優れたレコーディングや、モニターリングのシステムを、録音スタジオ、放送局に供給してきました。基本的にこれらのシステムのクオリティは、今日の水準に達しており、当時の技術レベルより、数段優秀であると認められておりました。

1926年初頭、世界で初めてトーキー映画の制作を技術的に可能としたのも、ALTECの先駆者であり、“Al Jolson”を主演とした“JAZZ Singer”が初のトーキー映画として封切られ、世界的な反響を巻き起しました。これにたずさわったエキスパート達は、その後も録音再生技術の改良を重ね、全米のあらゆる主要劇場、コンサートホール、公会堂に彼らのシステムを浸透させていったのです。ALTECでは、自ら、これら一連のプロフェッショナルスピーカーシステムを、“ヴォイス・オブ・ザ・シアター”（劇場の声）と名づけ、現在も第一級のプロ用再生システムにふさわしい愛称として、正当性と誇りをもって使用しております。

ALTEC社は、1937年、メインスタッフにWE時代のエキスパート達の多くが参加し、創立しました。更に1941年、劇場や、スタジオ音響機器を製造していたランシング・マニファクチュアリングの吸収合併を行ない、ここにALTECランシングが発足し、世界の音響界の夜明けとも云うべき輝かしい1歩が踏みだされたのです。

レコーディングスタジオ、放送局、ホール等のプロ用スピーカーは、苛酷なほどの注文をつけられます。何故ならミキシング、ミックスダウン、マスターリングや、サウンドエフェクト等の良否が、コンダクター、プロデューサー、エンジニア達の仕事の生命にかかわるからであり、そこには、妥協などみじんも許されません。

特に録音した内容と質をできうる限り、正確にチェックする必要からモニタースピーカーには相当なウェイトがおかれます。

当然、その選定条件も、よりシビアなものになっているのです。

実際に、有名なレコーディングスタジオのほとんどとって良い程、多数のALTECモニターシステムが採用されている事実は、ALTECスピーカーが、音楽を極めてよく認識して作られており、音楽という素材をリアリズムをもって再現できる卓抜の能力を備えていることを実証するうえで、これほど適切な証拠は他にないでしょう。

更にALTECでは、プロフェッショナルの分野での得がたい経験と伝統を、ホームユースのHiFiステレオシステムや、コンポーネントの分野にも幅広く応用し、画期的な製品を世に送り出しています。

それらは、他メーカーと異なる、飽くまでプロ製品を基盤とし、アマチュア指向にティチューンしたモデルがほとんどであり、ホームステレオから作り初めたメーカーとの本質的な製品の違いや風格が感じられます。

最新のALTECシステム開発計画では、スタジオエンジニアの正確な耳での貴重なアドヴァイスから生れたALTEC本来の優れたクオリティとパフォーマンスはそのまゝに、家庭でのリスニングスペースやルームアコースティックの条件に理想的にマッチする新製品が、続々と登場しております。中高音ドライバーに採用され、比類の無い自然で透明な音色で、評論家諸氏を驚嘆させた新シリーズダイアフラムや、小型システムでは“ベルエア”“新ブックシェルフシリーズ”などがそれであり、小型システムとはいえ、高能率、高品位のALTECサウンドキャラクターは、大型システムのそれと、全く違っておりません。

その辺に、ALTECスピーカーシステムの、物理特性だけでは測り知れない数々の魅力が隠されているともいえるそうです。

